

保健室から見た「子どもの貧困」

保健室から見た「子どもの貧困」をテーマに、小学校から4人、中学校から2人、高校から2人の養護教諭が集まり現状を出し合いました。子どもがおかれている状況の厳しさが次から次と出されました。保健室からも「学びと希望を奪う」貧困がみえます。



ストレスで人間不信に — 小学校

◆就学援助を受けている児童が増えていきます。以前はほとんど見られなかった父親の名前での認定も増えていきます。この不況下で仕事がない、病気で働けないなど、家庭の厳しい経済状況が想像できません。また離婚家庭が多いのも気になります。経済的な困難を抱えていても、しっかりと子どもをみている家庭もあります。が、子どもの学校生活や発達に影響を及

ぼしていると思われる親の生活ぶりが目立ちます。子どもは欠席や遅刻、欠食が日常化しており、自己負担なしで受診できるような医療券を発券しても、病院に連れて行かない親がいます。自分のケータイやゲームにお金を使っても給食費は払わないという親もいます。

◆5年生の子どもの母親ですが、ダブルワークをしています。子どもの面倒を見ないので、虐待なのではないかと周囲にいる人が気づき、保護司や民生委員がかかわっています。母親には精神的な病気があるようですし、子どもは発達障害の診断がだされています。母子が安心して家庭生活を送るためにはいろいろな困難があります。

◆両親が離婚し、母方の実家に身を寄せたのですが、そこには、もともと暮らしているところがあります。同じ小学校に通っているが、いとこといっしょに住んでいることを友達に隠し、バレることを恐れ、ビクビクしながら生活しています。複雑な家庭環境下でのストレスや離婚騒動の中で人間不信になっています。また、子どもを学校に行かせる意欲がなく、自分が仕事に出かけた後に小さな弟妹の世話をさせている母親もいました。母親自

◆一人親の母親が家を出て行ってしまいました。5人の兄弟が残されました。不衛生な状態で放置され、アタマジラムが発生しても家庭での適切なケアが期待できないため、学校のシャワーで頭を洗い、薬をつけてあげることもあります。家の中は雑然として、ゴミの中で生活しているような状態です。

◆市の施策で子どもの医療費が無料になり、経済的な心配をすることなく、親に「医者にかかった方がいいですよ。」と言えるようになりました。ただ、せっかく無料で受診できることになっても、親が子どもを病院へ連れて行くためには、仕事を休まなければなりません。仕事を休めば収入が減ることはもちろん、仕事を辞めさせられるのではと怯え、子どもの受診をためらう母親がいると聞きました。また、無料で受診するためには書類

給食が栄養源——中学校

◆中学校では、子どもも親も、家庭の経済状況が厳しいということを周囲に知られないよう、必死に隠して生活しているため、教員は気がつかないこともありま
す。公立高校の受験に失敗したので、併

◆学校を休みがちで怠惰な子だとみられていた生徒が、実は、精神的に不安定な母親のもとで、学校を休んで、小さな妹や弟の面倒をみていたことがわかりました。母子家庭で、祖父母の援助を受けながらなんとか生活はしているものの、母と祖父母の折り合いが悪く、精神的に安定することはありませんでした。

◆家庭が崩壊し、安心して生活できる「家庭モデル」を知らずに育った女子生徒が、中学卒業後すぐに結婚し、赤ちゃんを抱いて学校に現れるというケースもあります。低学力の生徒が、社会人となつて親の立場で社会のいろいろな仕組みを理解することは困難と思います。『事

務室』という校内の表札をあえて『じむしつ』と、ひらがなにしている学校の中にはそういった親に対するせめてもの配慮のひとつだということです。

病院に行けない——高校

◆登校途中で交通事故に遭い、ケガをしているのに救急車が来ても乗ることを拒む生徒がおり、学校に連絡が入りました。すぐに担任と養護教諭が事故現場に駆けつけ、「どうして救急車に乗らないの?」と聞くと、「保険証がない。」と言うのです。彼は父子家庭で、生活に困窮していました。健康保険の保険料を払えず、学費は自分で稼いだアルバイト代から払っていました。交通事故の場合は、保険証は必要ないことを説明すると、やっと救急車に乗ってくれました。

◆3年前まで勤務していた「学力困難校」では、全校生徒の約3分の1が就学援助を受けていました。母子家庭がとて多く、その学校では、生徒に「病院へ行きなよ。」という言葉がとて重く、簡単には言えませんでした。現在勤務している「進学校」では、健康診断後の受診報告書がほとんど戻ってくることに、はじ

めは驚きました。「病気がみつかったら受診する。」こんな当たり前のことが当たり前でなくなっている前任校の生徒の生活状況を、進学校の生徒との違いを目の当たりにしたことで改めて思い知らされました。家庭の経済力と学力がこれほど関係しているのかと現状を重く感じます。

◆高校3年では麻疹の予防接種を受けることになっています。接種率は進学校では9割を超えるのに、困難校は4割程度にしかありません。接種の費用がかかることや、接種のためにバイトを休むなど時間を作らなければならないことが関係していると思います。

◆「家計がたいへんだから、バイト始めようと思って・・・」保健室での何気ない会話から聞こえてきます。ほとんどは「自分の小遣いや携帯料金くらいは自分で稼がなきゃ」という程度ですが、中にはそこまで働かなくてもいいでしょ、と思ってしまふような働き方をしている生徒もいます。夕方4時から夜の10時くらいまで毎日働き、さらに、定期テスト中など学校が午前中で放課になる日の午後までバイトを入れてしまふのです。勉強どころではありません。部活をやる子

も減っています。入学当初は、部活をやるのを楽しみにしていた生徒が、バイトに追われているうちに部活から離れてしまっています。

入学時には、能力もやる気も十分に持っている子どもたちだったのに、と顧問もがっかりしています。

また高校生のバイトという立場でありながら、「今度、主任になったから、パートのおばさんの指導をしなきゃいけないの。」という子もいます。高校生を安い労働力として都合よく使っている雇用側にも問題があると思います。

◆両親の離婚後、父親と暮らしている女子生徒。父親は、子どもの面倒を見る気はなく、パチンコでお金を使ってしまう。家には炊飯器もお米もないそうです。お昼休みには、廊下をうろろしているところをよく見かけます。「お腹がすいた。」と言って保健室をのぞくのでお菓子をあげると、「これで元気になった。」と教室へ向かいます。保健室で食べ物があればよいという問題ではないと思いますが、どうすればいいか悩んでしまします。また他にも、昼食(弁当)を持ってこないで昼休みにひたすら校庭を歩いている生徒がいます。時間をつぶ

しているようです。

◆3〜4年前からでしょうか、退学者が増えました。以前は「進級できなくなっちゃうから、次は授業に出なきゃ。」と言っていた子どもたちが、ある時から、「どうせ進級できないし、家庭もたいへんだから働いて稼いだ方がいいや。」と学校を辞めていくようになりました。「自分ががんばればなんとかなる。」というイメージを持ちにくくなっているように思います。

学びを奪う貧困

8人の養護教諭が集まり、状況を語り合ってみると、次から次へと子どもの置かれている厳しさがあきらかになりました。安心して生活できる環境を奪われている小中学生、学費や食事の心配までしなければならぬ高校生の深刻な状況から、貧困が子どもたちから学びを奪っている状況がみえてきます。

また、「意欲がなくなっている子どもたち」が増えていることに不安を覚えしました。学校へ行く意欲、勉強をする意欲、部活動をする意欲、病院へ行く（病気を治そうとする）意欲、高校を卒業しよう

という意欲、さらには食べる意欲、生きる意欲さえ弱くなっているのではないかと。

教育基本法が「改正」され、親への指導や親学のすすめが推奨されています。「早寝・早起き・朝ご飯」の励行や父親の学校参加等、家庭や親のあり方に対する提言が盛り込まれ、各地で具体化されているところです。しかし「早寝・早起き・朝ご飯」が可能な生活を、どの家庭にも保障するために本当にしなければならぬのは、行政が推進しようとしている「親教育」ではありません。

養護教諭の仲間である金子由美子氏は、『資本主義社会において、未曾有と言われる経済的貧困は、生活・文化・教育・医療・公的サービス・地域コミュニティ等あらゆる面での貧困と連鎖してしまう。身の上にくいくつもの貧困がバイのように積み重ねられたなら、誰しも身動きできなくなる。「子ども十女」という社会的な弱者に貧困が重なれば、そこに性産業の巧みなワナも仕掛けられる。（・・・中略・・・）ゲーム・薬物・買い物・ダイエット・セックス・自殺ネット・カルト・ネット恐喝等、自己陶醉しながら行為にはまっていくな春期の子ど

もの事件が立て続けに起きている。彼女らが、何から逃避しようとしているのか、依存をさせているのは誰なのか。私たちおとなは、子どもを『ゆつくりと豊かに育む能力』を喪失していることを自覚していかなくてはならないのだと思う。』（明石書店・子どもの貧困白書）と書いています。

夜、子どもを家に置いて出かけてしまう親、子どもが熱を出しても保健室にあずけっぱなしで迎えに来ない親、食事を作らない親、パチンコや携帯にはお金を使っても給食費は払わない親、・・・そんな親の姿に、「もつと子どもを見てほしい。親らしく子どもを育ててほしい。」と思うのは、子どもの成長発達を願う養護教諭として当然の気持ちです。その一方で、厳しい社会情勢の中、「ゆつくりと豊かに生きることのできる社会」を、親を含めて社会全体でつくり出していくことが求められています。親の雇用や生活の安定、子どもの医療費や高校授業料の無料化等の社会保障とセーフティネットの整備を推し進めていくために、私たち一人ひとりに求められていることは何か。それを探っていかなければなりません。